

第 12 回

猿楽の時代と鬪茶展

— 多賀大社参詣曼茶羅図に描かれた芸能 —

2016年12月1日(木)～12月11日(日)

会場：あけぼのパーク多賀 ギャラリー

猿楽の時代、中世（十三～十四世紀頃）、能・狂言は「猿楽」と呼ばれ、各地の社寺を舞台に活動を行う猿楽座がありました。世阿弥の『猿楽談義』によれば、当時近江国には六つの座があり、そのうち一番古い歴史を持つ座が今の多賀町敏満寺にあった敏満寺座（北坂座）であると伝えられています。

鎌倉時代後期から南北朝時代にかけて大変流行した芸能に「曲舞（くせまい）」があります。叙事的な詞章を鼓に合わせてリズムカルに歌いつつ舞う芸態であったようです。女曲舞の名手であった乙鶴という人物から観阿弥がこの曲舞を学び、大和猿楽の中に取り入れていったことは有名です。京都の祇園御霊会や東大寺の御霊会などでこの曲舞が、「屋根があり、車が付いている」「曲舞車（くせまいぐるま）」と呼ばれた舞台で演じられています。

今回は「多賀大社参詣曼茶羅」を展示し、そこに描かれた曲舞車についてご紹介いたします。

近江猿楽多賀座

関連イベント「鬪茶会」12月11日(日)11:00～15:00

会場：あけぼのパーク多賀 あけぼのカフェ

鎌倉時代末期に公家・社寺・武家間で、お茶の産地の飲み当てるとい遊びが流行しました。現代風にアレンジした「鬪茶」を体験してみませんか？景品も用意しておりますので、お気軽にご参加ください。

主催 近江猿楽多賀座
共催 あけぼのパーク多賀 多賀町立博物館
協力 近江和装株式会社・多賀観光協会
お問い合わせ あけぼのパーク多賀 多賀町立博物館 TEL 0749-48-2077

